

## 建築物石綿含有建材調査者講習修了考査

問題 1. 石綿について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 石綿障害予防規則において「石綿等」とは、労働安全衛生法施行令第6条第 23 号に規定する石綿等をいい、石綿およびこれをその重量の 0.1%を超えて含有する物をいう。
2. 「石綿」とは、繊維状を呈しているアクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライトおよびトレモライトをいう。
3. 蛇紋石族はクリソタイルで、他の5種は角閃石族である。
4. 今まで世界で使用されてきた石綿の約9割以下がこの蛇紋石族のクリソタイルである。

問題 2. 石綿の有害性について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 吸入性石綿繊維については、WHOやILOでは、長さとの比を5:1以上でかつ幅 $5\mu\text{m}$ (マイクロメートル)未満としている。
2. 石綿繊維を含む粉じんのヒトへの吸入経路は鼻腔→咽頭→喉頭→気管→気管支→細気管支→肺泡道→肺泡囊である。
3. 粉じんが鼻腔・咽頭を通過し、気管・気管支に到達しても、 $5\mu\text{m}$ 以上の粒子は渦状に流れる気流によって気道粘膜に付着する。
4. 肺泡腔に到達するのは $2\sim 3\mu\text{m}$ 以下の微細な粒子になる。

問題 3. 石綿関連の疾患について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 石綿肺は大量に石綿を吸入することによって発症する。病理学的にはびまん性間質性肺線維症である。
2. 石綿のばく露量が多いほど肺がんのリスクは高くなる。
3. 中皮腫は最も潜伏期間が長く、また他の疾患に比べてより少ないばく露量でも発症する。
4. 喫煙の肺がんリスクは石綿のおよそ2倍であり、石綿関連肺がんの大半は、喫煙をやめることによって防ぐことはできない。

**問題 4.** 大気汚染防止法及び建築基準法について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 2020(令和2)年6月5日には、レベル I、2 に加え、石綿成形板等も適用対象とされた。
2. 事前調査結果等の掲示板の大きさは日本産業規格A3判以上とされている。
3. 建築基準法では、建築物の通常の利用時において石綿の飛散のおそれのある建築材料(吹付け石綿および石綿含有吹付けロックウール)を新たに使用することを禁止するとともに、建築物および工作物の増改築時にこれらの建築材料の除去等を義務付けている。
4. 建築物等の増改築時には、増改築を行う部分の床面積が増改築前の床面積の3分の1を超えない場合、増改築を行う部分以外の部分については、封じ込めや囲い込みの措置を行うことが認められている。

**問題 5.** 建築物石綿含有調査について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 建築物石綿含有建材調査には、解体・改修工事等における、石綿則等に基づく事前調査が必要である。
2. 建築物石綿含有建材調査には、建築基準法に定める石綿含有吹付け材や同法に規定がない石綿含有建材を使用している建物等を維持するための調査がある。
3. 建築物石綿含有建材調査には、将来建築物の解体等が行われることを想定した資産除去債務を見積もるための調査がある。
4. 建築物石綿含有建材調査は、改修の事前調査と解体の事前調査は同じである。

**問題 6.** 石綿含有建材調査者について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 調査者は、建築物を解体・改修する工事を行う前に、依頼者に対して、正確な報告書を提出する役割がある。
2. 「石綿含有建材有無に関する事前調査結果報告書」については、石綿含有建材調査者に責任があることに留意する必要がある。
3. 事前調査の契約時に、石綿含有が不明な材料の措置について明確にしておく必要はない。
4. ①石綿が 0.1 重量%を超えているとの“みなし”措置と、②該当材料から試料を採取して、石綿の有無を分析して石綿が 0.1 重量%を超えているかを判定する措置がある。

**問題 7.** 建築物石綿含有建材の使用状況調査業務の中核を担い、調査報告を取りまとめるコーディネーターを務めるのが調査者である。調査者に要求される事項で次の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 建築物などの意匠・構造・設備にわたる基礎知識を有する。
2. 建築物などに使用されている建材(石綿含有も含む)に関する知識を有する。
3. 建築物などの施工手順や方法に関する基礎知識を有する。
4. 調査者の誠実で確実な調査が、作業者の石綿ばく露防止および飛散を防止し、石綿関連疾病罹患者の増加につながると自覚することが肝要である。

**問題 8.** リスクコミュニケーションについて、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 2017(平成 29)年、環境省から「建築物の解体等工事における石綿飛散防止対策に係るリスクコミュニケーションガイドライン」が公表された。
2. 2022(令和 4)年 3 月に「建築物の解体等工事における石綿飛散防止対策に係るリスクコミュニケーションガイドライン改訂版」が新たに公表された。
3. 石綿含有建材調査者にとってのリスクコミュニケーションの関係者は、建築物所有者、管理者、解体等工事の施工業者が主ではない。
4. 「石綿の使用の有無に関する事前調査」結果に対する説明を建築物所有者、管理者、解体等工事の施工業者に代わって、該当地域の住民等に行う場合があることに留意する。

**問題 9.** 建築一般について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 建築図面から石綿含有建材の記載箇所を効率的に見つけるため、建築基準法の防火規制に着目する方法がある。
2. 建築図面から石綿含有建材の記載箇所を効率的に見つけるため、断熱や結露防止、吸音など設計者の設計思想や各建築部位に求められる性能に着目する方法がある。
3. 建築一般の知識を頭に入れておくことは見落としを防いだり、建材の代表性を誤って判断することを防止することにつながる。
4. 耐火建築物などとしなければならない特殊建築物には「劇場、映画館または演芸場の用途に供するもので、2階以上の階のもの」がある。

**問題 10.** 延焼のおそれのある部分他について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 延焼のおそれのある部分(建築基準法第2条6号)とは、隣地境界線および道路の境界線よりそれぞれ1階にあつては3m以下、2階以上にあつては5m以下の距離にある建物の部分をいう。
2. 主要構造部とは、壁、柱、床、はり、屋根、または階段をいう。
3. 主要構造部とは、建築物の構造上重要でない間仕切壁、間柱、附け柱などの部分を除くものとする。
4. 同じ吹付け石綿であれば、「1時間耐火」よりも「2時間耐火」の方が、吹付け層が厚かった。

**問題 11.** 防火区画他について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 異種用途区画とは、同じ建築物の中に複数のテナントが入るデパートと店舗・飲食店などの場合、用途や管理形態の異なる部分を区画することで被害の拡大を食い止めるものである。
2. 防火区画を貫通する配管などの措置として、建築設備に耐火構造に事前に計画した開口部をあけ、配管やケーブルを通した後、周囲を埋めるなどがある。
3. 音響性能が要求されるホールや会議室・音楽教室などには、バーミキュライトや仕上げ材と併用して吹付け石綿が使用されることがある。
4. 断熱・結露防止を目的とし、北側の壁や、ピロティなどの天井スラブ下に吹付け石綿が施工されることはない。

**問題 12.** 建築設備と防火材料について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 建築基準法上では、建築設備を「建築物に設ける電気、ガス、給水、排水、換気、暖房、冷房、消火、排煙若しくは汚物処理の設備または煙突、昇降機若しくは避雷針」と定義している。
2. 防火区画の上下階の床や壁を貫通するケーブルトレイやケーブル等がある場合の貫通部の処理にけい酸カルシウム板第1種を使用することが多かった。
3. 建築設備とは、給水、給湯、排水通気、衛生器具、グリーストラップ、給水タンク、浄化槽、ガス、消火を含む。
4. 昇降機のエレベーター、エスカレーターのシャフト内部では、鉄骨に耐火被覆のため吹付け石綿が施工されている。

**問題 13.** 石綿含有建材について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 断熱材が使用されている箇所としては、最上階の天井裏やピロティの天井裏、外気に面する壁の裏(特に北側の壁裏)などがある。
2. スラブと外壁の間の層間部やカーテンウォールのファスナー部、ブレースなどの箇所に石綿繊維を結合剤と練り合せたものを塗り付けていることはない。
3. 石綿含有の使用時期以降でも石綿を含有している場合があるので、注意する必要がある。
4. けい酸カルシウム板には第1種と第2種がある。第1種はレベル3建材に区別されており、厚さは6・8・12mmなどと薄いため、けい酸カルシウム板第2種と見分けることができる。

**問題 14.** レベル3の石綿含有建材について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 不定形な接着剤、パテ、混和剤、塗り壁材料、塗材など、添加剤としても使われている。
2. 石綿含有建材データベースでは商品の約 95%がレベル2の石綿含有建材である。
3. aマーク表示がないからといって、早計に石綿無しと判断しないよう注意が必要である。
4. 石綿含有ルーフィングは、目視では、石綿が含有されているか否かの識別は極めて困難である。

**問題 15.** 石綿含有建材情報の入手方法について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 実際に使用されている建材が石綿含有建材か否かが判定できるのは、その建材の商品面が特定でき、メーカーが正確な情報を開示している場合である。
2. 意図的に添加していなくても、非意図的に法令基準の 0.1%超で混入している可能性があるため注意が必要である。
3. データベースに登録されている建材情報の内容を引用する際には、「国土交通省・経済産業省 石綿(アスベスト)含有建材データベース(2015(平成 27)年2月版)」と分かりやすい箇所に必ず引用元を明記する。
4. 検索した建材(商品)がデータベースにない場合、「石綿無し」の証明になる。

**問題 16.** 書面調査について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 書面調査を行わずに目視調査を行いながら現地で同時に書面を確認することは実務上非効率である。
2. 書面調査は、目視調査の効率性を高めるだけでなく、調査対象建築物をあらかじめ理解しておくことにより、石綿建材の把握洩れ防止につながることもなることから、これを省略してはならない。
3. 2006(平成18)年9月1日の石綿などの製造等禁止以降に着工したことが明らかな建築物等についても、目視調査は必要である。
4. 調査の対象・範囲・箇所は、調査の目的に照らし、必要十分な範囲となるよう発注者と十分相談・確認の上、確定する。

**問題 17.** 図面の種類と読み方について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 建築物を建設するにあたり、管轄の関係官庁(建築指導課・消防署など)に建築物を建てる許可を得るために「建築確認申請書」や各申請書類などを提出する。
2. 石綿調査にあつては、参考資料として書面調査を行い、現地で確認することは必ずしも必要でない。
3. 竣工図とは、建築物が竣工し、引き渡す段階での建築物の図面であり、施工中に行われた設計変更などにより設計当初から変わった箇所を修正した図面である。
4. 調査にあつては、それぞれの図面にどうことが書かれてあるかを読み取るには、建築物や工作物の基礎的知識が必要である。

**問題 18.** 建築図について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. レベル3の石綿含有建材は建築物の内部だけでなく外部、すなわち外装においても使用されている。
2. 床材本体には石綿は含まれていないが、床材を施工する際に使用した接着剤に石綿が含まれていることがあるので注意したい。
3. 内部仕上表は室内の仕上面の建材名が記載されており、間仕切壁や天井裏、ペリメータカウンター内や外壁等の裏打ちなどの直接見ることのできない部分の建材についても記載されている。
4. 石綿含有ロックウール吸引天井板は、事務所ビルや商業施設などの内装用の天井材として多く使用されている。

**問題 19.** 建築図面の入手および発注者へのヒアリングについて、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 書面調査では、建築確認図などの設計図書を建築物所有者から借用することになり、建築物所有者など関係者の許可が必要である。
2. 建築図面などの借用時には、その使用目的と不要な部分の閲覧・複製をしない旨の説明が必要である。
3. 建築図面は、複製であっても、紛失してはいけないし、使用後に返却しなくてもよい。
4. 借用時には必ず借用書を作成し、借用した図面の種類や設計図書名を記し提出し、返却の際は図面・書類を借用書に基づき返却を確認し、後日トラブルが発生しないよう十分な注意が必要である。

**問題 20.** 書面調査結果の整理の要求事項等について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 現地において、迅速・簡易に情報を記入できるものとなるよう留意すること。
2. 現地において、調査・判断の流れに沿って記入しやすいものとなるよう留意すること。
3. 現地において、調査箇所に漏れがないことを確認しやすいものとなるよう留意すること。
4. 石綿含有建材等の建材をリストアップすればそれだけでよい。

**問題 21.** 一戸建て住宅の種類について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 木造軸組工法とは、木の柱・土台・はり・筋かいなどの軸組を組み合わせて骨組みを構成する工法で、国内では最も多く建築されている。
2. 木造枠組み工法とは、ツーバイフォー工法とも呼ばれる北米由来の工法で、断面が2×4インチである木材で枠組みした枠材に構造用合板を打ち壁を作る。
3. 鉄骨軸組工法とは、軽量鉄骨の柱・土台・はり・筋かいなどの軸組を、木造軸組工法と同様に組み合わせて骨組みを構成する工法である。
4. プレハブ住宅とは、あらかじめ工場で部材を生産、加工、組立を行い建築される住宅をいい、木質系だけの構造・工法である。

**問題 22.** 一戸建て住宅に使用される石綿含有建材について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 一戸建て住宅に使用されている石綿含有建材は、主にレベル2の石綿含有建材であり、吹付石綿が使用されているケースはまれである。
2. レベル3建材は、石綿含有建材と「みなす」ことも認められている。
3. 写真や図面により調査した箇所を調査結果に記録していき、調査の終了時に漏れがないか確認する。
4. 一戸建ての住宅等では、通常はレベル1やレベル2に該当する石綿含有建材が使用されていることはほとんどない。

**問題 23.** 調査の流れについて、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 書面調査を行わなかったり、事前の計画や準備をせずに成り行きで調査を行おうとすると、適切な調査道具や装備がないばかりに十分な調査ができない可能性がある。
2. 再調査は調査者自身の無駄な労力となるばかりか、調査自体の正確性や依頼者からの信頼を失うもととなる。
3. 事前調査では、解体・改修等を行う全ての建材が対象であり、内装や下地等の内側等、外観からでは直接確認できない部分についても調査が必要である。
4. 依頼主から調査計画書の提出を求められることはない。

**問題 24.** 事前準備について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 調査の前日までに必要な用品や装備を準備しておく、準備する課程で調査の段取り、手順を確認することになり、不足している装備などを揃えておくことができる。
2. 試料を収納するビニール袋は、メモ書きが可能で口が密閉できる厚肉タイプとし、袋のサイズは2～3種類用意したい。
3. 試料採取に際しては呼吸用保護具は国家検定合格品の RS-1または RL-1の取替え式防じんマスク以上の性能を有するものを用いることが望まれる。
4. 調査時の服装のポイントは、調査作業中であることを第三者に伝えるという点と、粉じんばく露からの自己防衛という点の2点である。

**問題 25.** 目視調査について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 立会い者との待ち合わせ時刻を決めていたとしても、時間的余裕をもって現地に到着し、現場の確認をしておくことが望ましい。
2. 対象建築物の外周を一周してみるのも参考になる。
3. 石綿の調査においては北面の妻側の壁にのみ、結露防止や断熱を目的として石綿含有建材が使用された、といったケースがある。
4. 定礎に刻印された年月は、調査に一番必要な建築物の着工時期の情報を取得できる。

**問題 26.** 目視調査に臨む基本姿勢等について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 建築物石綿含有建材調査者登録証を提示するとともに、作業服や保護帽などに調査者であることを表示しておく。
2. 立会い者は目視調査における主なヒアリング対象者であり、調査当日のキーマンとなる。礼節をわきまえて応対する必要がある。
3. 同一パターンの部屋が続く場合は、他の部屋で試料を多めに採取し、それを小分けして他の部屋分とする方が効率的である。
4. 設計者や施工者の意図を探ることができれば、同一建築物における類似箇所への石綿含有建材の使用を類推することができる。

**問題 27.** 調査者の労働安全衛生上の留意点について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 石綿含有建材の採取の際には、飛散抑制剤などを散布してから行う。
2. 試料採取時は扉・窓等を閉め切り、換気扇などを使用する。
3. 防じんマスクのフィルターは、一つの調査対象建築物完了ごとに取り替えると決めておくことが望ましい。
4. 高所等危険な箇所の場合には、調査報告書に採取不能であった理由を記載すればよい。

**問題 28.** 調査者による試料採取について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 事前調査について厚生労働省通達(平成 30 年 4 月 20 日基安化発 0420 第 1 号)では、同一と考えられる建材の範囲ごとに、原則として2カ所以上から試料を採取することを示している。
2. 採取箇所を選定は、先入観を持たずにその対象となる室内を詳細に観察することから始める。
3. 人が出入りするなどして接触する機会の多いドア周辺や、電気スイッチ類の近辺からの採取は避けるようにしたい。
4. 依頼者の承諾が得られない場合は採取を行わず、分析による評価、石綿の有無に関する判定がなされていないことを報告書に明記する必要がある。

**問題 29.** 試料採取の際のその他の留意点について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 試料採取の最中に石綿含有建材から石綿繊維が飛散しないようにするため、噴霧器、濡らしたペーパータオルなどで採取箇所を事前に十分に湿らせる必要がある。
2. 通常の建築物の利用時の調査を行った場合は、「疑いのある材料が使われているが、使用範囲を確定することが困難であり、改修工事の際にその都度調査を要する」といったコメントを附する。
3. 天井材の試料採取を行う場合、天井点検口のふた部分の天井材から採取する。
4. 天井や壁が二重に施工されている場合、新旧両方の建材を試料採取する必要がある。必ずしも古い材料が石綿含有で、新しい材料が石綿不含有とは限らない。

**問題 30.** 目視調査の記録方法について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 各シーンで多めに写真を撮影しておく、思い出し効果も期待できて有効な資料となる。
2. 現地での写真撮影は、その写真を編集し、報告書を作成する調査者自身がカメラマンとなることが望ましい。
3. 写真の構図(フレーミング)は全写真ともできるだけ縦の構図としたい。
4. 石綿劣化の判定は、「劣化」または「劣化なし(劣化が見られない)」という2局化した分類のみではなく、その中間に該当する抽象的な表現だが「やや劣化」という分類が必要となってくる。

**問題 31.** 調査者による分析機関の選定について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 石綿の分析に係る必要な知識及び技能を有することは分析者にとって必要な要件とはならない。
2. 技術者への教育を適切に行っている分析機関は、計画的な技術講習会参加、社内技術教育などを実施しており、技術者の教育記録を管理している。
3. 分析機関へ、石綿分析の技術者教育計画と教育記録を提出させる。
4. 依頼する分析機関が制度管理プログラムを実施しているかどうかを見極めるため、石綿含有建材分析の誤りがどのくらい生じるか把握しているか？と質問した。

**問題 32.** 建材の石綿分析法の概要と変遷による留意点について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 規制対象の含有量が2006(平成18)年9月に0.1%超へと引き下げられた。
2. 国内で主に使用されていたクリソタイル、アモサイトおよびクロシドライトの3種類のアスベストを分析対象としていたが、2008(平成20)年からはトレモライト、1種類が分析対象に追加された。
3. 2012(平成24)年と2014(平成26)年には国際標準規格(ISO22262)の定性分析法(Part1)と定量分析法(Part2)がそれぞれ発行され、JIS化された。
4. 2016(平成28)年3月22日にJISA1481(2016)が改正及び制定された。

**問題 33.** 現在のJISA1481の概要について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. JISA1481-1 市販バルク材からの試料採取及び定性的判定方法  
実体顕微鏡、偏光顕微鏡および電子顕微鏡による定性分析
2. JISA1481-2 試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法  
X線回折および位相差・分散顕微鏡による定性分析
3. JISA1481-3 アスベスト含有率のX線回折定量分析方法  
X線回折による定量分析
4. JISA1481-4 重量法及び顕微鏡法によるアスベストの定量分析方法  
X線回折による定量分析

**問題 34.** 調査票の下書きについて、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 後日の思い出しながらでの作成では、記憶が鮮明ではないので思い違いが生じるおそれがある。
2. 目視調査個票は、必ずしも調査した部屋の順番に作成することはない。
3. この部屋別の目視調査個票には、掲載する写真も同時に添付しておく。
4. 同じような写真が多いので写真も撮影順を乱さないようにしたい。

**問題 35.** 結果速報や分析結果報告書についてチェックするポイントとして、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 分析結果報告書を受領した場合、必要な書類(社判押印、分析者氏名、分析結果総括、検体別の結果、写真やチャート図その他)が全部は揃わなくてもよい。
2. 送付した試料番号や試料名と分析結果報告書の記載に相違がないかどうか。
3. 試料に含有する石綿の種類などの分析結果と調査者自らの目視による推定とに差がないかどうか。
4. 二層吹き吹き付け材の場合、結果に疑問や違和感はないかどうか。

**問題 36.** 分析結果報告書について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. アスベスト分析マニュアル「定性分析方法1(偏光顕微鏡法)」の結果の場合、層別の区分や結果に疑問や違和感がないかどうか。
2. アスベスト分析マニュアル「定性分析方法1(偏光顕微鏡法)」の結果の場合、含有していた非石綿繊維が何か特定しているかどうか。
3. 添付された分析写真に疑問や違和感はないかどうか。
4. 結果の違いは調査者は分析機関に直ぐに問い合わせ、その乖離原因の把握、疑問・違和感の解消に努めてはならない。

**問題 37.** 石綿の有無に関する事前調査結果報告書の作成について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 石綿含有建材の有無と使用箇所を明確にする(解体・改修工事の作業員へ石綿含有建材の使用箇所を的確に伝える)。
2. 石綿を含有しないと判断した建材は、その判断根拠は示さなくてもよい。
3. 調査の責任分担を明確にする(同一材料範囲の特定、試料採取者、試料採取指示者など、重要な判断を行った者を記載する)。
4. 含有建材と「みなす」理由は調査依頼者に尋ねられる場合も多く、簡潔に書くことが必要である。

**問題 38.** 調査報告書の記載にあたって、対象物件について、誤っているものを1つ選びなさい。

1. 施設名:発注書どおりの施設名を使う、複数の建物が存在する場合は、補助番号などで補う。
2. 所在地:竣工当時の番地と現在の番地を記載するように努める。
3. 建物構造:S造、SRC造、RC造、W造、その他( )。( )内に記載する。複合する場合は存在する構造に全てレ点を入れる。
4. 建物用途:事務所、工場/倉庫、娯楽施設、学校など複数選択は不可である。

**問題 39.** 調査報告書記載にあたって目視調査および診断について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 整合性確認:書面と現地が整合する場合は○、整合しない場合は×で明示する。
2. 写真番号:整合性の確認状況写真と試料採取等の状況写真の番号など。
3. 石綿の有無:「あり」か「なし」かの二択は記載しなくてもよい。
4. 材料レベル:レベル1、レベル2、レベル3、仕上塗材、無石綿。

[IV]

**問題 40.** 建築物に石綿ありの場合の維持管理について、次の設問の中から誤っているものを1つ選びなさい。

1. 建築物のどの部位に石綿を使用しているかの位置図を作成する(事前調査結果を使用)。
2. 位置図を基に、年1回定期的に劣化等の状況の外観検査を行う。劣化等が著しい場合は、除去または立入り禁止とする。
3. 該当室内等で各種作業を行う場合は、該当部位に接触または、機械等による損傷を避けるように関係者に通知する。
4. 定期的に室内の石綿繊維数濃度の測定を実施し、飛散・ばく露のおそれがないかは確認しなくてよい。